



る う て る

2012年
4月
No.772

■発行所
日本福音ルーテル教会事務局広福室
〒162-0842 東京都新宿区山谷砂土原町1-1
電話 03-3260-8631
■編集 | 00190-7-71734
■ウェブサイト | http://www.jelc.or.jp
■E-mail | jelc@jelc.or.jp
■発行人 | 徳野昌博 m-tokuno@jelc.or.jp
■印刷 | 晴文堂印刷株式会社
■定価 | 1部 40円 (郵便を含む)

説教 「新しくされたあなたに、おめでとう！」

兄弟たち、わたしがあなたがたに告げ知らせた福音を、ここでもう一度知らせます。これは、あなたがたが受け入れ、生活のよりどころとしている福音にほかなりません。どんな言葉もわたしが福音を告げ知らせたが、しっかりと覚えて、あなたがたはこの福音によって救われます。さもないと、あなたがたが信じたこと自体が、無駄になってしまおうでしょう。最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十八日に現れたことです。コリントの信徒への手紙一 15章1-5節

イースターおめでとう

ございます。こちらブラジルでは、イースター復活祭を、「パスコア(Pascoa)」と言います。チョコレート製の「オーボ・デ・パスコア(イースターエッグ)」がスーパーで鈴なりにぶら下げられて売られています。5cm位から30cmのもので、割る中にもチョコがたくさん入っていて、二重の喜びを味わうことができます。

死んだ石ころのような冷たい殻を破って愛くるしいひよこが生まれ出てくるように、キリストの死の悲しみを蹴破り、新しい命が出てくることをお祝いします。ブラジルではカルナバ

ルの大騒ぎが終わって、四旬節の慎ましい期間が始まります。お肉の売り上げが落ち、バカリヤウ(鱈の塩漬けの干物)が積み上げられ売られます。この期間、お肉やお酒をいただくかないで、日常を悔い改めるといふ方々にも出会います。街の通りでは、クワレズマ(ポルトガル語で「四旬節」の意)の並木が、みごとに紫色の花を咲かせます。神様も、この季節にこの色の花を咲かせ、心静かな悔い改めという準備を迫っておられます。

私はブラジルに遣わされて3年になります。今

までと違った体験や祈りをさせられます。机の上の話し合いや書類、予算書だけではなく、祈りながら体当たりをしなければ渡れない川辺に今まで以上に立たされるように思います。静かに考え、祈るようにさせられます。教会のことで、人生でも、話し合いで結論を出すことや議論で勝つことではなく、困難でも神様の心があるなら取り組み、祈り、ひたすら待つことを教えられました。眠れないような不安や絶望の、もう一つ向こうで神様に出来ること、新しい地で、新しいことに取り組み、自分に足りないことを教えてくださる神様に感謝します。

困難に出会う時、自分の小ささを思い知らされます。しかし、そこでどう思うかで、結果は違います。「ああだめだ、いつもこうだ」とふさぎ込むか、信仰と希望を持って進むかです。ただ頑張る



ブラジルのスーパーのイースターエッグ売り場

困難に出会う時、自分の小ささを思い知らされます。しかし、そこでどう思うかで、結果は違います。「ああだめだ、いつもこうだ」とふさぎ込むか、信仰と希望を持って進むかです。ただ頑張る



だけは綺麗で、形や高さの整ったものを選びました。しかし、最後まで気になるカップがありました。棚の下にまとめておいてあった、曲がったカップたちです。私は最後にそれをも一つ買ってきました。毎朝朝食でそのコーヒークップを使うことにしました。朝の忙しいひとときですが、それでコーヒを飲み、自分の足りなさや不完全さを思う時間になります。「神から見れば、罪人の私達は曲がった矢張り、自分も弱いところ、曲がったところ、とがったところがある。でも赦され、生かされている。用いられながら瞑想できるので、心の中で静かに祈って始める一日。そこに新しい一日、新しい自分の命があると思えます。

日本福音ルーテル教会
第25回定期総会
5月2(水)・3(木)・4(金)日
百年記念東京会堂

ことは限界があります。絶望するけれど、安心するということが大切です。「キリストが私達のために十字架に掛かり、復活してくださったから」という聖書の言葉と、「あの時もそうだったから、今度も神様が動かしてくれはす」という自分の神様との体験がそうさせてくれるのです。不思議な安心感です。その福音の言葉を私達は受け入れ、「生活のよりどころにする」ことが、道を切り開くのです。あなたは、どんな事柄を抱えどんな祈りを持っていますか？
今年の初めに、ブラジルの有名な「弓場農場」を訪ねました。もとはキリスト教中心の自給自足の農業共同生活を続けている、日系社会です。そこで、多くを感じました。食料もほぼ自給自足で、家具やお茶碗なども作っています。私も、お茶碗やコーヒークップを買って求めてきました。釜の隣の部屋の棚から、出来るだけ綺麗で、形や高さの整ったものを選びました。しかし、最後まで気になるカップがありました。棚の下にまとめておいてあった、曲がったカップたちです。私は最後にそれをも一つ買ってきました。毎朝朝食でそのコーヒークップを使うことにしました。朝の忙しいひとときですが、それでコーヒを飲み、自分の足りなさや不完全さを思う時間になります。「神から見れば、罪人の私達は曲がった矢張り、自分も弱いところ、曲がったところ、とがったところがある。でも赦され、生かされている。用いられながら瞑想できるので、心の中で静かに祈って始める一日。そこに新しい一日、新しい自分の命があると思えます。

第9回世界子ども支援
上野由恵
フルードコンサート

5月11日(金) 10:30 ※ 蒲田教会・幼稚園
5月13日(日) 13:30 保谷教会
5月19日(土) 14:00 神戸教会
5月20日(日) 19:00 藤が丘教会
5月22日(火) 11:00 ※ 19:00 本郷教会
5月26日(土) 14:00 知多教会(中津礼拝所)
5月27日(日) 14:00 沼津教会
5月29日(火) 10:30 ※ 大岡山教会・幼稚園
6月1日(金) 18:00 シオン教会徳山礼拝所
6月3日(日) 14:00 松本教会
6月11日(月) 19:00 ルーテル市ヶ谷センター
(※は子ども向けプログラムになります)

主催 日本福音ルーテル社団(JELTA)
日本福音ルーテル教会・世界宣教委員会

歴史には重い意味を持つた年月日がある。
一五二七年一月三日もそうした日に当たる。ルターがヴィッテンベルクの城教会の扉に、通称「九五箇条の提題」を掲示した日だからである。そこから、いわゆる一六世紀宗教改革が始まった。一〇一七年と言えはほんの五年先だが、その年は「宗教改革五〇〇周年」の年に当たっている。それでは、ルーテル教会はまたカトリック教会はそこの日をどのように迎えるか。結論を先取りして言えば、ルーテル世界連盟と

ヴァティカンとは、その日を共同で記念する計画を立てている。一〇月三十一日にはおそらく、「九五箇条」が貼り出された城教会で、両教会による合同の礼拝が行われるだろう。日本福音ルーテル教会も五〇〇周年を記念するための準備委員会を立ち上げた。日本でもカトリック教会と合同の記念行事が行われることが期待されている。

時代は変わったし、変わり続けている。だから、宗教改革とその中心人物ルターの意義が、この機会に改めて問われねばならない。この連載がその一助になればと思っている。

ルター研究所 所長 鈴木浩

新任牧師あいさつ

「主が備えてくださる」

たけだ たいち
竹田大地

主の御名を賛美いたします。人間の心は自分の道を計画する。主が一步一步を備えてくださる。という箴言の御ことばが神様の真理であると思えます。私自身、本当に神様の計画の偉大さを感じずにはいられないからです。神様から召しを受ける前は、「絶対に牧師にはならない」と息巻いていた私が、まんまと牧師になつたわけですし、私のことを幼少の頃よりご存じの方々にとっては驚きに満たされていることであると思います。

しかし、この私自身を神は立ててくださいました。本当に欠け多い私ですが、神への畏れと感謝を持つてこれから歩んでいきたいと思えます。その一步一步を神様は、備えてくださっています。その大きな恵みを受けつつ歩める喜びに満たされていますし、そのことを信じて生きていききたいと思えます。



神様を頭として、そして、皆様と共に福音宣教に励んでいきましょう。どうぞよろしくお願いたします。皆様の上に豊かな恵みがありますように。

「希望」を証しする者として

いぬい かずお
乾 和雄

こんにちは。神戸東教会の牧師とされた乾です。主が若き日に内海季秋先生との出会いを与えて下さり、神戸と東京の二つの神学校を経て、今このように、六五歳の私を福音宣教者として招き、召し出してくださったことを心から感謝したいのです。私たちの世での命は神さまからの預りものです。与えられたこの命を神さまに一杯用いていただきたいのです。これからの宣教の場におきまして、主が豊かに用いてくださると信じております。

ベルクにもベストが大流行し、多くの人々が町を去つたにもかかわらずM・ルターは牧師として町に留まり続け、人々を慰め励ました。主の召しに確信に堅く立ち、「この世と来るべき世での命を約束」(一テモテ四章八)してくださり、生きて働いておられる救い主イエスさまにのみまことの希望がある。



ることを、さらに多くの方々に、生き生きと証しをさせていただく者でありたいと、心から願っております。



日系ルーテル・サンパウロ教会を訪問して
間瀬園恵 (藤が丘教会)

徳弘牧師夫妻と間瀬さん(左)

大袋のだし昆布やバザー用の衣類を一杯に詰め込んだ大型トラック三個を引きながら、サンパウロの空港に到着したのは、京都のマンションを出てから36時間後のことでした。残暑の厳しい京都とは一変して、まだ肌寒い春先の空港には、長袖姿の徳弘牧師夫妻がにこやかに出迎えてくれました。

1965年に、初代宣教師の藤井牧師が設立された教会は取り壊され、今はカトリック教会の駐車場の一角になっており、次の教会跡地も大きな商業複合ビル建設地に呑みこまれていました。現在の日系ルーテル・サンパウロ教会は東洋人街の突き当たりであつて、看護大学や予備校、商店や食堂の集まる、賑やかで明るい場所になりました。地下鉄駅にもバ



お目当てのルーテル教会は薄茶のレンガ調の二階家で、二階が牧師館一階が学生寮として仕切られていました。自立教会を目指して、まずは運用資金の調達のために

と、中央に大理石の階段のある大きな古家を手に入れて大改造し、一五の個室を作つて入寮生を集めたということです。安くて清潔だということで人気があり、向こう数ヶ月は予約満杯だということでした。しかし、経費の節約のためにガスではなく電気だけに頼つているのでシャワーの出が弱く、また、トイレに流す水も、水道水の節約のために雨水を溜めて流すという、並々ならぬ工夫がしてありました。サンパウロでは、驚いたことに、美術館でもホテルでもトイレに紙が流せません。「ウォシュレット」のトイレというものは、並の生活では無縁のもの(超一流はわからないが)と聞かされて驚嘆しました。寮の学生さんたちは当番をきめて掃除をしていました。学生さんの相談相手と事務管理には、すぐ近所に住んでいる教



建物の右側通路の奥に礼拝堂があり、そこに続く白い壁にはスペイン風に花器がかけられて、彩を添えていました。その入口の光採りの屋根は長く突き出ている、その場所にイスとテーブルを並べては、礼拝後の昼食会や交流会をしていました。ちょうどバザーの前でもあったので、そこでバザー用品に値づけをし、そこをバザー用品の置き場に使っていました。毎年日本から送られてくる「北海道ルーテル昆布」は目玉商品であり、また日本からの古着も、すぐにほどけてしまつて着つらくなるブラジルのものとは違うということから、日本の教会から送られてくるバザー用品の、特に女性衣類は喜ばれていました。(続)

九州教区礼拝と音楽の学び



講師の前田貞一先生

九州教区では、毎年2月11日に「礼拝と音楽の学び」を行っています。もともと奏楽者講習会としてはじめられたプログラムでしたが、奏楽者だけでなく、ひろく牧師や会衆の方々にも参加していただけるよう「礼拝と音楽の学び」として対象を広げて開催されてきたものです。この数年は、隔年でパイオルガンとリードオルガンのそれぞれを用いた礼拝での賛美について、各地の教会をまわりながら学びを深めてきました。



会場の健康教会

今年、昨年パイオルガンを新設した健康教会での講習会に、教区各地から約60名が集まりました。午前中、前田貞一先生から「ルーテル

午後からの松波久美子姉（宮崎教会）によるミニコンサートでは、パツハとモーツァルトから1曲ずつ。用いられたオルガンは、ポジティフォルガンと呼ばれる小さなパイオルガンでした。が、それでも楽器と会堂がゆたかに響きあうさまに身を委ねながら、もつと聴いていたい、と思われるような幸せなひとときでした。

教会はなぜ式文を用いて礼拝をするのか、という講演を聴き、現在わたしたちが使っている式文の背景に、初代教会からの永い試行錯誤と発展の歴史があり、ひとつひとつの所作にも、それを生み出してきた必然性があること。そのことを理解した上で、「式文に使われるのではなく、式文を使いこなせるように」という励ましを頂きました。

その後、松波姉の指導で、ルターのコーラルを学ぶワークショップが行われました。教会賛美歌に収められたルターの手によるコーラルを10曲。こちらも賛美歌の楽譜にしぼられるのではなく、会衆が賛美しやすいように自分も歌っていく、といった奏楽者の心構えについて。また、その賛美歌が作曲された背景や、ルターがその曲に託した想いなども伺いながら、奏楽者も会衆も、今までよりもっと賛美歌が好きになるような、恵まれたひとときを過ごして、会場を後にしたのでした。

九州教区伝道教育部長 小泉基

林宏牧師の思い出

定年教師 園田剛

1954年にルーテル神学校を卒業して牧師への道を踏み出したのは、林宏、南里卓志、河田稔、折田良三、それに私の5名。すでに主の御許へ先立つた南里君と河田君に続いて、今度は林牧師が去り、同寮仲間

のクラスで、私より6歳も年長でした。だから親しみよりも実は「怖い」先輩。きわめて無愛想、強面、よれよれの服、ぼさぼさの髪の毛、泥まみれの破れ靴、そんな芳しくない印象だけが残る先輩でした。

ところが、彼は神学校を中途で飛び出し、2年後に復学して私たちと一緒に卒業する「同寮仲間」になりました。学校を去った理由は、当時の神学校の権威主義への抵抗だったそうです。

けれども、その後の牧会においては、厳しさよりもその内側に秘められた優しさや愛情を感じ取る人が多

林牧師を「君」付けで呼ぶには抵抗があります。入学した当初、彼は2学年上に在学中で、故石居吉広先生など、畏れ多い先輩たち

く、最初の赴任先だった甘木教会での3年間では、20名近い人たちが彼に深く影響され洗礼を受けていました。やがて、皆に惜まれつつ小城教会へ転任し、小

親交に恵まれました。やがて私も九州を離れて、海外留学や豊中教会の在任で、30年近く疎遠になっていました。そして再び身近に接する機会が出来たのは1990年に私が博多教会に赴任して、彼の

親交に恵まれました。やがて私も九州を離れて、海外留学や豊中教会の在任で、30年近く疎遠になっていました。そして再び身近に接する機会が出来たのは1990年に私が博多教会に赴任して、彼の

喜びがそれぞれの信仰を養います。それは青年活動としては消極的なものであるかもしれない。しかし、忙しさや生きづらさを抱える若者たちが体を引きずるようにして教会に集る現実の中で、居場所や生きる意味を得ていくために欠かすことのできない要素であると思

た。これもまたつながりを欲し、その重要性が引き継がれて来たことの証明でもあるでしょう。また特に今回は、人と人とのつながりが揺さぶられ、またつながりを断つことまで起きてしまった大地震による津波や原発事故から、自分のこれまででこれからの生き方を考える機会ともなりました。

3月に行われた春の全国ティーンズキャンプには青年達も多く参加しました。例年、青年達が様々な形で準備と運営を担います。つながりを与えられることの喜

びを経験して来た青年達は、今度はかつての自分たちの世代へ、つながりを提供するスタッフの一員として、ティーンズに仕える機会を持つのです。

昨年、ルーテル世界連盟が取り組んだ「We're together」にも参加し、環境問題と聖書をテーマに世界各地の青年達と折り合うことが生まれ、このようにつながりも青年を育てます。

教派を超えた青年達



神学校卒業式で、前列左より林、園田、南里、河田、折田神学生

ちかごろの全国青年活動



日本福音ルーテル教会の全国的な青年活動のキーワードは「つながり」であるといえます。つながりたいという気持ちや青年達同士のつながりを生み、つながって

去年9月に雪ヶ谷教会と幼稚園を会場に行われた全国青年修養会は、15回目となる会でし

て、様々な信仰スタイルや社会との関わり方に出会い、それに刺激を受け、磨かれる機会となっています。

修養会などの特別な機会だけでなく、全国に散らされた青年達がその日常においてつながりを確認し折り合うためにフェイスブックでの交流が開始されました。

今後のつながりを紡ぐ歩みをお支えください。



http://www.facebook.com/n/zensenjin

引退牧師あいつ 主の導きのままに

白髭 義



振り返れば、六十歳で牧師になり七十歳の誕生日を迎えるまでの十年間は本当にあつという間でした。けれど

も、その十年は豊かな交わりに支えられ充実した十年でした。大江教会、宇土教会、天草集会所、三原教会、福山教会、松山教会に直接関わりながらでしたが、また教区、全国の信徒の皆様のお祈りに支えられていることをひしひしと感じてきました。紙面をお借りして皆様にご挨拶できることを喜びとさせていただきます。

なお、退職後もまだ少しは余力があると、思っています。これからもよろしくお願いいたします。

2012年度人事

(※敬称略)

定年引退

(2012年3月31日付)

・白髭 義

新任

(2012年4月1日付)

(一般任用)

・竹田大地(新任)
一般 下関教会(主任)
・厚狭 教会(兼務) 宇部教会(協力)
西教区 指導牧師:
佐々木赫子

・乾 和雄(新任)
嘱託 神戸東教会
(西教区) 指導牧師:

松本義宣

人事異動

(2012年4月1日付)

〔北海道特別教区〕

・なし

〔東教区〕

・なし

〔東海教区〕

・中村朝美 高蔵寺教会主任

・花城裕一朗 復活教会主任

・宮澤真理子 岡崎教会・刈谷教会主任

・三浦知夫 浜松教会主任(兼務)

・渡邊 進 沼津教会主任(兼務)

・白川道生 掛川菊川教会主任(兼務)

〔西教区〕

・小勝奈保子 釜ヶ崎活動・豊中教会主任(兼務)

●その他
■本教会人事
(2012年4月1日付)

・野口勝彦 東日本大震災「ルーテル教会救援」派遣牧師

J3プログラム
退任
・Dana Dutcher
・Dana Dutcher
・重富克彦

ふたたびのみちのくへ

東京教会 伊藤百代

東日本大震災から1年、大津波の恐怖、加えて福島第一原発の不安は今も続いています。第1回ボランティアパックに参加し、今回は「東松島の加工所」の奇跡的な復興を喜び会う感謝の再会でした。8ヶ月ぶりの東北道は、雪景色であらわれる思いでしたが、福島警戒区域を通り過ぎる頃から、残雪の中に痛々

しい姿に様変わりしてました。三陸自動車道から鳴瀬川や北上川が穏やかに流れ、杜の都でみどり美しい仙台の地で祈りました。神さま、このような震災の時にこそ試練と同時に逃れる道を整えてください。あなたの教会が「主にあつて一つ」の神の家となりますように、仙台教会が導かれ、3月11日が宣教の拠点となり、残雪の中に痛々

となり、残雪の中に痛々となり、残雪の中に痛々となり、残雪の中に痛々



嘱託任用

(2012年4月1日付)

・谷川卓三 三原教会・福山教会 主任

・立野泰博 大江教会・宇土教会主任(6月1日付)

・小泉 基 大江教会・宇土教会主任(兼務) 4月1日~5月31日

・濱田道明 二日市教会・甘木教会主任(兼務)

・宮本 新 福岡西教会主任(兼務)

・野村陽一 日田教会主任(兼務)

■宣教師(2012年)

・エリック・ハンソン 退任(2012年9月30日付)

・セツポ・パウラサリ 退任(2012年9月付)

2011年12月フティネン氏(日本宣教担当より)が、常議員会から派遣終了決定の通達を受けて退任を承認。

●J3プログラム

退任

・Dana Dutcher

・Dana Dutcher

・重富克彦

●教会委嘱

(2012年4月1日付)

・中村圭助

・白髭 義

・白髭 義

・重富克彦

●休職

・汲田真帆 2010年9月~2012年9月末

2012年9月末をもって病氣休職期間(2年)終了の連絡を行った。

真観地震に原点があるといわれています。

二日目は、石巻三反走にある仮設住宅を訪ねました。仮設住まいのほとんどの方は、自宅が全壊しているということですが、その多くが知り合いです。

立野牧師、伊藤文雄牧師の暖かい信頼関係は見事でした。当日の昼食を任せられメニューに苦労し、通常はご飯と汁物が多いようので、「すき焼き」を提案しましたが、高価? 少量? 豚? 市ヶ谷を出発する前日の事で時間切



住所変更のお知らせ
■三浦芳夫先生
住所: 40-0862 愛知県豊橋市向山大池町1-7-11 ベルガーデン向山 403
電話番号は変更ありません。